

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	オーラルヒストリーによる韓国知日派知識人に関する研究				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小針 進
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	渡邊 聡
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小針 進

講演題目	李御寧氏が歩んだ道と日韓両国
------	----------------

研究の目的、成果及び今後の展望

【目的】韓国には、その社会で一定の影響を持ってきた知日派知識人が存在し、活躍してきた。日本文化の特質を見いだした論稿として有名な『「縮み」志向の日本人』の著者である李御寧（イ・オリョン）氏はその代表である。韓国きっての知日派である一方で、記号学者としての幅広い文化批評は知識人と大衆を問わず、多くの韓国人に影響を与えてきた。初代文化部長官に任命されるなど、歴代政権からも重視されてきた人物で、2022年2月に逝去された。2019～21年度科学研究費補助金基盤研究（C）「韓国の知日派知識人をめぐるオーラルヒストリーを基礎とした学際的研究」の一環として、李御寧氏に対する日本語によるオーラルヒストリーを実施してきた。

本研究の最大の目的は、その「語り」の記録化を行うことである。李御寧氏に対して8回に分けて体系的な「語り」を得た。韓国知日派知識人の社会観や文明観などを明らかとなった「語り」を記録化することで、学際的な検討と現代日韓関係の再照明を行うことができる。

【成果】整理すると、150近くの事象を聞くことができた。その一部は、つぎのとおりである

- 中学生時代まで育った牙山、■「教育勅語」と童の文化、■「身体検査」とアジアの身体観、■植民地時代の「名前」とアイデンティティ、■クリティカルと人間としての実存の日本観、■「光復」直前と直後のこと
- 二項対立と三項循環、■植民地時代に感じた日本的匂い、■日本の軍歌と金日成将軍、■朝鮮戦争の勃発、■当時の日本語図書、■「李箱論」と「偶像の破壊」の頃、■歴史、集団記憶、集団知性、■朝鮮戦争とホジュビヘンギ（濠州飛行機）、■『「縮み」志向の日本人』の執筆と駒場、■ソウル五輪の開会式を演出、■文明の二項対立を三項循環に、■「デビュー」となったサントリー財団主催 JAPAN SPEAKS■「国姓爺合戦」の話、■凸版印刷の印刷博物館について、■エズラ・ボーゲルとの大阪会議、■国際交流基金がきっかけの人脈、■梅原猛のもとの京都研究生活、■京都から発想したジャンケン文明論と「甘え」、■デジログという言葉と文化相の受諾、■京都時代の話、■金大中から新千年準備委員長の就任要請、■蕪村の「白梅」と「高麗船」、■高麗船と黒船に見る日本とアジア、■白梅文化圏とユークロニア、■日本の企業文化と韓国人の抽象性
- ジオカルチャーとジオポリティクス、■近過去と近未来、■ハングルと漢字、■フィシス、セミオシス、ノモス、■生命論と情報・記号、■生命と情報と朱子学、■アジア人として今後語るべきこと

【今後の展望】上記の事象を中心とした記録（内部報告書）の完成にはこぎつけた。今後、遺族らの了解を得ながら、これを出版化して、広く世に明らかにしていく作業が残されている。